



【ねらい】

Google Classroom

Classroomを活用した資料配布、評価機能の活用、返却操作ができる。

【ポイント】

- ① 「授業」からファイルや動画を配信
- ② 「採点」から評価と返却
- ③ 「ルーブリック評価」の機能の活用

【活動】 課題の配信と提出された課題を評価しよう。

① 「授業」からファイルや動画を配信



「+作成」から「資料」を選択

ルールやユニットの単位で整理しましょう
えることができます

① 「授業」からファイルや動画を配信



「追加」からドライブのファイルを選択

① 「授業」からファイルや動画を配信



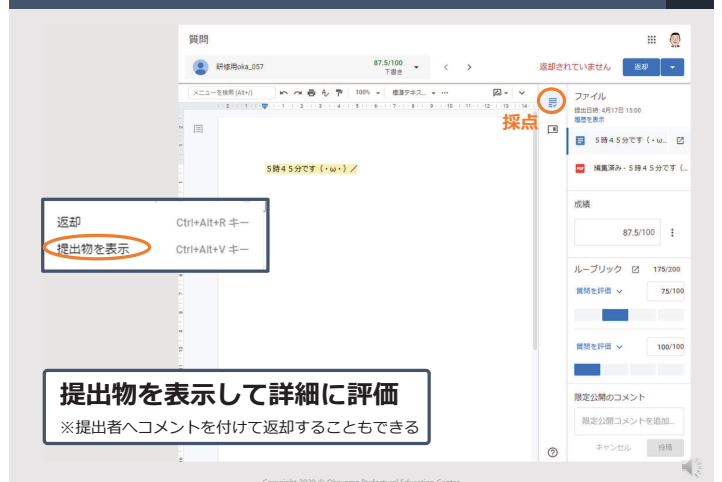
「追加」からYoutube動画を検索

② 「採点」から評価と返却



採点と評価をして返却する

② 「採点」から評価と返却

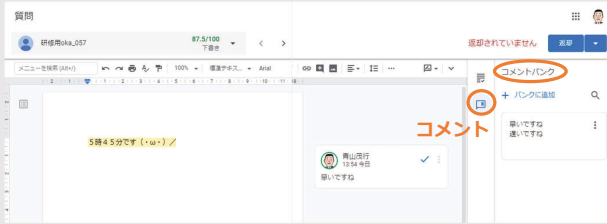


提出物を表示して詳細に評価

※提出者へコメントを付けて返却することもできる

② 「採点」から評価と返却

6



コメントは提出物の部分にも

- ※ドキュメントやスプレッドシートのコメント機能が使えます
- ※効率的なコメントにコメントバンク機能もある

③ 「ルーブリック評価」の機能の活用

7

Classroomはルーブリック評価に対応しています

■ルーブリックとは

ルーブリックとは、子どもの学習到達状況を評価するための、評価基準表のこと。

黒上先生らが研究するルーブリックでは、右のような表を用いる。縦軸に複数の評価項目を置き、横軸にはその到達レベルをS・A・B・Cの4段階で定義する。子どもの学びが各評価項目のどのレベルまで到達しているかを測ることで、プレのない、客観的な評価が実現可能となる。

	S	A	B	C
評価項目(1)	評価基準	評価基準	評価基準	評価基準
評価項目(2)	評価基準	評価基準	評価基準	評価基準
...

S: Super (期待する思考活動以上に、何かプラスαが見られる)

A: 十分満足できる (期待する思考活動が十分見られる)

B: 概ね満足できる (期待する思考活動は見られるが、未到達な部分もある)

C: 努力を要する (期待する思考活動が見られない)

出典: 黒上晴夫(2007) 見える「評価」で授業が変わる JUST.School
https://www.iustsystems.com/jp/school/academy/hint/rubric/ru01_01.html

③ 「ルーブリック評価」の機能の活用

8



課題作成時にルーブリックを作成

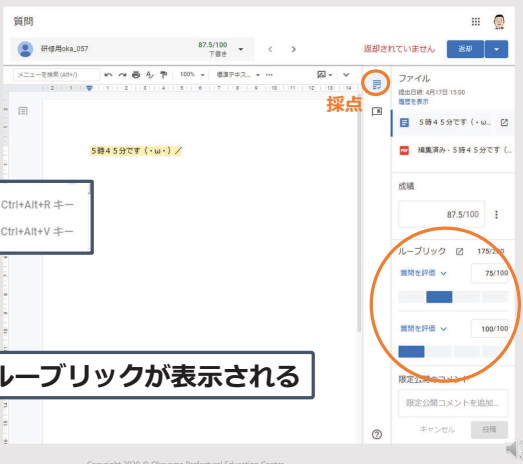
③ 「ルーブリック評価」の機能の活用

9



③ 「ルーブリック評価」の機能の活用

10



評価時にルーブリックが表示される

【活動】

11

課題の配信と提出された課題を評価しよう

※研修では複数のClassroomを起動して、先生役、生徒役を交代しながら体験してみましょう。